

つながり

麻生田小だより No. 7

令和5年11月1日

文責 校長：阪本 雅弘



麻生田小キャラクター
「アッサニー」

【教育指針】礼・学・体

【校訓】かしこく 強く 美しく

【教育目標】いつまでも続く未来を創るために、自ら考動する子どもの育成

【学校経営スローガン】「子ども一人一人が輝き、笑顔があふれ、毎日来たくなる学校」

11月は、思いやり、やさしい心をさらに磨く「心かがやけ月間」

朝夕は少し肌寒くなり、めっきり秋らしくなってきました。10月見学旅行や5年生の集団宿泊教室など行事多くあり、子どもたちが楽しくお友だちと活動し、成長の機会となっています。そのような中、10月半ばのある日、学校のポストに「校区内の一老人の感謝状」というお手紙をいただきました。

前略 突然のお手紙の失礼をお詫び申し上げます。近年は悪いことを悪いことと自覚せず、注意を受けても容認せず、注意する者を悪として反省をする事のない人が増加していると感じます。私は、麻生田1町内の公園を利用させていただいている老人です。そこでたまたま公園使用の申し合わせを表示されているにもかかわらず、無視して飲食後ゴミをそのまま捨ておいてしまう人、水で遊び迷惑をかける人、フェンス他施設を壊す人、注意すると逆にいやがらせをしてくる人といろんな不快を感じさせられました。ところが10月7日にすばらしい良い子とめぐり合いました。いつものように公園を歩いていると、二人の女の子がやってきて、いきなりゴミ拾いを始めたので「何やっているの?」と聞くと「ゴミを拾っています!」との事。その子たちは目につくゴミはもちろん、花木の株に隠れているゴミまで丁寧に拾っていました。たまたま手が届かず苦労している様子を見て私が助けてゴミを取り出して渡すと、二人の子はそろって頭を下げ「ありがとうございます!」と言ってくれました。長年このような子供達に出会っていなかった者として逆に感激させられました。後に二人の名前を聞くと麻生田小学校の2年2組の二人でした。土曜日にわざわざ公園にゴミ拾いに来てくれる子供達がいる・・・嬉しいことです。その子たちのお姉さんも以前ゴミ拾いをしたという事で、良い行動につながっていると日本もまだまだ捨てたものではないとすがすがしい気持ちになりました。朝、夕公園を利用していますが、私が公園につく前に常に公園の近所の奥様がゴミ拾いをしてくださっていて、私と入れ違いに帰られるのですが、その人達の努力を無視してゴミを残していく人が多勢後をたちません。そんな中、二人の女の子の行動はほめてあげてほしいです。そして、ゴミを捨てて帰る子どもが一人でも減少するよう願っております。近頃はほめられる子をいじめる、良い子がいじめられることもあるという話も聞きます。そんな事が起きないように配慮の上、良い子を是非ほめてあげてください。明早朝いつものようにゴミ拾いをする人が「あら、今朝はゴミがひとつもないわ!」と思うように今から公園に来る人がゴミを残しませんようにと念じながら公園を後にしました。今日は素敵なお手紙だったと締めくくった老人です。老人のこととて乱筆乱文をご容赦くださいませ
草々

給食時に全校放送で紹介させていただきました。心かがややく子どもたちを育てていきたいと思ひます。

<11月の主な行事予定> (変更の可能性あり)

- 1日(水) 代表委員会・愛校作業
- 2日(木) 4年生見学旅行
- 7日(火) 麻生田モーニング(環境・美化)
- 8日(水) 地区別人権教育研修会
(3時間授業給食なし)
- 15日(水) 新入学児童就学時健康診断
- 19日(日)~20(月) 6年生修学旅行
- 22日(水) ENGLISH DAY
- 29日(水)、30日(木) 熊本市学力検査

<12月の主な行事予定>

- 5日(火) 全校朝会
- 7日(木) レインボータイム
- 8日(金) **麻生田ESDフェスタ(1・2・6年発表)**
授業参観(2・3・4年)、第2回学校評議員会、学級懇談会(3・4年)
- 12日(火) 麻生田モーニング(緑化)
- 13日(水) 5年生水俣肥後っ子教室
- 19日(火) **ESD研究モデル校発表**
- 22日(金) 終業式



ESD ご協力ありがとうございます!

なのはな学級の子どもたちが、ペットボトルキャップの回収をがんばってくれています。10月から麻生田郵便局、サンリブ、ウェルシア、コミセンの4か所に回収箱を設置させてもらい、多くの地域の方々にご協力いただいております。現在なのはなの子どもたちが18,937個まで数えていますが、数えるのがまだ追いついておらず、各設置箱にまだたくさん集まっているようです。地域のみなさまにご協力いただき誠にありがとうございます。

ペットボトルキャップ2kgでワクチン1人分になります。今後子どもたちから回収業者に依頼し、世界の子どもたちの命を一人でも多く救えることにつながるよう活動していきます。

